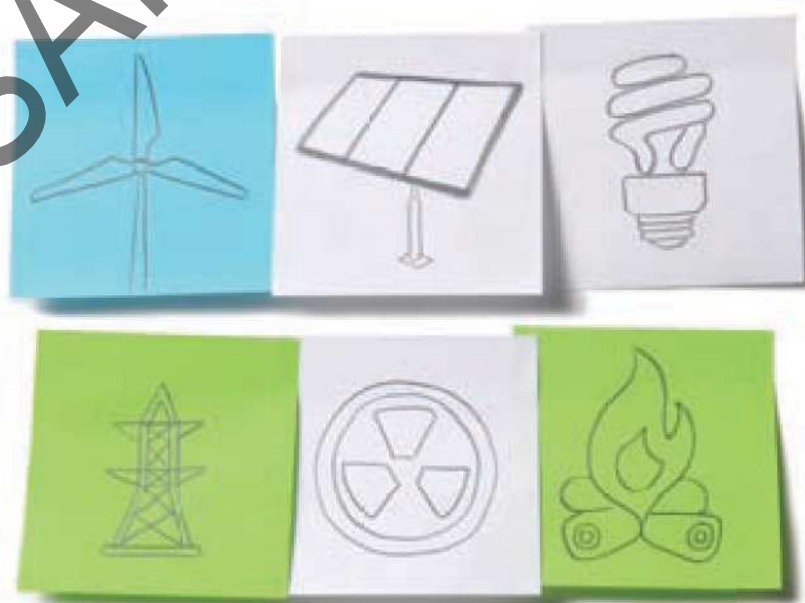


The Shifting Landscape
電力業界の俯瞰

SAMPLE



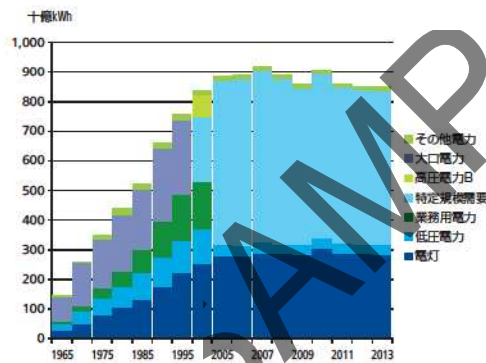
1. 電力需給動向とエネルギー基本計画

電力需給動向の変遷

電力需要実績

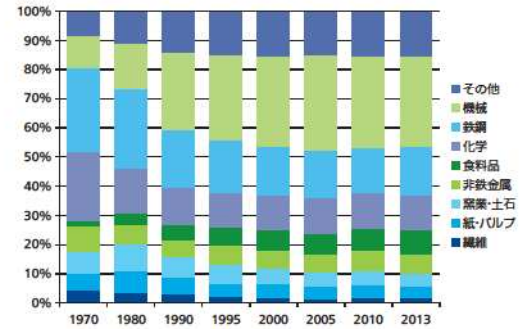
日本の電力需要は、戦後の復興期から高度経済成長期に至る経済活動の伸張を背景としながら、旺盛に増加してきました(年平均増加率1965-1980年は8.2%)。現在の日本経済は低成長期、そして今後においては少子高齢化等の影響から成熟期を向かえようとしています。2000年以降の電力需要も引き続き増加基調で推移(2000年-2010年の年平均増加率0.9%*)してきたものの、その後横ばいに転じています。足下の日本経済は、内需低迷によるデフレ状況が続いていたため、産業需要においては伸びが芳しくありませんが、家庭需要においては情報化社会の進展や生活様式の高度化を背景としながら堅調に推移しています。

【販売電力量の推移(10電力計)*2】



日本経済は1960年代の高度経済成長やオリンピック/万博等の特需を背景に、1968年にはGNP世界2位に達するほどの成長を遂げ、それと共に電力需要も旺盛に増加してきました。また、家庭においても生活水準の向上を背景に、テレビ/冷蔵庫/洗濯機といった「三種の神器」が普及し、民生部門における電力需要を押し上げてきました(年平均増加率1965-1980年は9.8%)。

【産業別の大口電力需要の構成比(10電力計)*2】



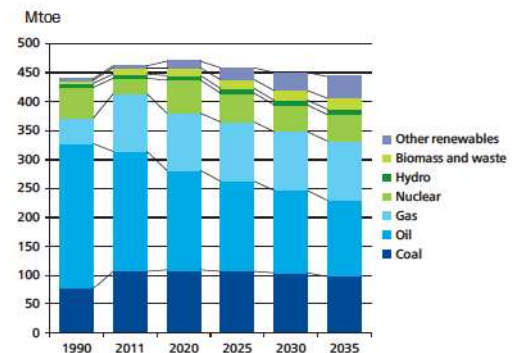
日本の産業構造は、戦後復興期から高度経済成長期を経て今日に至るまでの間に、素材型から加工組立型へ変化してきており、産業別の大口電力需要の構成比においても、鉄鋼業界/化学業界の割合が減少する一方で、機械業界の割合は増加してきていることが確認できます。

電力需要の見通し

一次エネルギー需要の見通し

World Energy Outlook 2013によれば、日本国内の一次エネルギー需要は、経済成長の鈍化・人口の自然減等の影響により、2020年以降、年平均0.4%の減少が見込まれています。また、石炭/石油/原子力は減少し、再生可能エネルギーが増加していくことが想定されています。

【日本の一次エネルギーの需要見通し*3】



1: 電気事業便覧 平成25年版/
電気事業連合会より作成

2: 電気統計情報(2014年6月現在)/
電気事業連合会より作成

3: World Energy Outlook 2013/
New Policies Scenario/
IEA
単位(Mtoe)は百万石油換算
トン